

2018年末手当交渉 収入動向

本部は、11月1日、年末手当交渉収入動向を行いました。以下、報告します。

会社より、営業成績（平成30年度上半期）を説明。

1. 収入動向

コンテナは、平成30年7月豪雨で山陽線が不通となった影響により、各地から九州向けへの輸送が大幅な減送となった食料工業品、積合せ貨物、中国・九州地区からの紙・パルプ、化学工業品、化学薬品の輸送が滞った。また、農産品・青果物は北海道産の夏季の長雨に伴う生育不良および北海道胆振東部地震の影響を受け低調な出荷となった。その結果、コンテナ全体では対計画△10,206百万円となった。

車扱は、石油が夏季の気温が高く推移したことに伴って、ガソリンの消費量が増加したため好調な荷動きとなった一方、山陽線不通の影響により九州からのレールが発送停止となった。その結果、車扱全体では対計画△116百万円となった。

・コンテナ（対計画）

平成30年7月豪雨で山陽線・予讃線・伯備線が不通となった影響により、中国・九州地区との輸送が大きく減少した食料工業品が対計画△1,603百万円、積合せ貨物が△1,475百万円となったほか、中国・四国・九州地区からの出荷が滞った紙・パルプが△1,352百万円、化学工業品が△1,027百万円、化学薬品が△849百万円となった。また農産品・青果物が北海道産の夏季の長雨に伴う生育不良および北海道胆振東部地震の影響を受け、△1,261百万円となった。コンテナ全体では対計画△10,206百万円（81,9%）となった。

・車扱（対計画）

石油が各地で観測史上最高気温を記録する等、気温が高く推移したことに伴って、ガソリンの荷動きが好調となった一方、レールが山陽線不通の影響により、九州から發送停止となったため、大幅な減送となった。車扱全体では対計画△116百万円（97,9%）となった。コンテナ・車扱の合計では、対計画△10,322百万円（83,4%）となった。

・コンテナ（対前年）

平成30年7月豪雨で山陽線・予讃線・伯備線が不通となった影響により、中国・九州地区との輸送が大きく減少した食料工業品が対前年△1,494百万円、積合せ貨物が△1,397百万円となったほか、中国・四国・九州地区からの出荷が滞った紙・パルプが△1,241百万円、化学工業品が△968百万円、化学薬品が△804百万円となった。また農産品・青果物が北海道産の夏季の長雨に伴う生育不良および北海道胆振東部地震の影響を受け、△1,140百万円となった。コンテナ全体では対前年△9,496百万円（83,0%）となった。

・車扱（対前年）

車扱は、石油が夏季の気温上昇に伴ってガソリンの消費量が増加し、好調な荷動きとなったほか、セメント・石灰石の需要も堅調に推移した。一方、レールが山陽線不通の影響により、九州からの発送が停止となったため、大幅な減送となった。車扱全体では対前年△6百万円（99,9%）となった。

コンテナ・車扱の合計では、対前年△9,501百万円（84,5%）となった。

2. 輸送量動向

上半期は、6月の大阪府北部地震、7月の平成30年7月豪雨、8月から9月にかけて接近した台風20・21・24号および9月の北海道胆振東部地震の影響等により、高速貨4,929本、専貨78本が運休となった（前年は、高速貨675本、専貨8本が運休）。特に平成30年7月豪雨では中国・四国地区で多数の線路災害が発生し、山陽線・予讃線・伯備線が不通となった。山陽線ではトラック・船舶による代行輸送および伯備線・山陰線・山口線を經由した迂回運転を実施した。

・コンテナ

山陽線不通の影響により、積合せ貨物、自動車部品、食料工業品等で九州向けの発送が大きく減送となったほか、紙・パルプ、化学工業品、化学薬品は中国・九州地区を拠点とする工場からの発送が滞るなど、相次いで発生した災害の影響を受け、すべての品目で前年を下回った。その結果、コンテナ全体では前年比84,3%となった。

・車扱

石油が各地で観測史上最高気温を記録する等、夏季の気温が非常に高く推移したことに伴い、ガソリンの消費量が増加し、好調な荷動きとなった。またセメント・石灰石の需要堅調に伴い増送となった。その結果、車扱全体では前年比100,3%となった。

コンテナ・車扱の合計では、前年比88,5%となった。

組合・これまでの状況を鑑みれば、営業成績が悪いのは仕方ないが、懸念しているのは、鉄道離れが起きている点である。現場で働く者は、今後を不安視しており、離れていったお客様を再度取り込むよう鋭意に取り組んで頂きたい。

会社・また鉄道を使ってもらえるよう、粘り強く足しげく鋭意に取り組んでいく。

組合・10月に運賃改定を行ったが、お客様の理解は得られているのか。

会社・当初、運賃改定により20億増を見込んでいたが、各支社合計で17億増はいけるとなっている。今回の災害で、お客様から九州方面はまだ待ってほしいとか、いろいろなご意見があるが、全く理解を得られていない状況ではない。また、運賃を上げていかないとますます鉄道事業部門の赤字が増えていく。

組合・今回の災害をうけて、線路の強靱化を早期に望まれるが。

会社・輸送部隊の対応となるが、全国通運連盟等と一緒に、国に訴えかけていく取り組みをしていく。

組合・車扱も運賃改定しているのか。

会社・している。

組合・私達は、安全安定輸送に日々努めていく。離れていった荷物を少しでも取り戻せるよう鋭意に取り組んで頂きたい。

会社・了解した。

ここから総務部

組合・現時点で言えることは何か。

会社・営業からも説明があったが、収入がかなり落ち込んでおり、また鉄道離れも起きている。今後、運賃改定と共にお客様確保に全力を上げていくが、大変厳しい状況である。国に対し鉄道強靱化に向け取り組んでいく。

組合・厳しい状況は理解する。求めることは、離れたお客様をまずは取り戻し、合わせて鉄道強靱化を多方面と協力しながら鋭意に進めて頂きたい。災害の度に、あのような長期間不通を繰り返せば、ますます鉄道離れが加速していく。

社員はこれまで、ウヤ等による作業変更・山陰線迂回運転・トラック代行応援等、慣れない作業が続く中、安全安定輸送に日々努めてきており、会社が提示する数字次第では、維持してきたモチベーションが一気に落ち、よって会社全体の士気が下り、経営に悪影響を及ぼす。会社が厳しい状況は理解するが、次回の会社の考えでは、社員の気持ちを十分に汲み取り、考えを示して頂きたい。

会社・主張を理解し、経営陣に伝える。

以上
